

事業所における自己評価総括表 児童発達支援

○事業所名	児童デイサービス ぐりっと南城		
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 8日 ～ 令和7年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14人	(回答者数) 12人
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 19日 ～ 令和7年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 5月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	看護職員が常駐している	○看護職員が常駐しているため医療的ケア児の受け入れが可能 ○看護指示書に基づいて薬の投与・咳痰吸引処置などを行える ○医療的ケア児だけでなく利用児童が来所持検温等必ず行い安心・安全を心がけ活動できるようにしている。 ○医療的ケア時についての研修等を行い全職員が緊急時の対応ができるように訓練している	保護者や連携機関との情報を共有し実施できる情報を収集する。 職員研修を引き続き定期的に実施する。
2	戸外活動が充実している。	○戸外活動の内容が固定化しないようにアンテナを張り地域のイベントの情報収集を行っている。 ○児童の意見を取り入れるためこども会議を開きやりたいことを決め実施している ○未就学児でも楽しめるような活動も取り入れています	たくさんの経験を利用児童たちにしてもらうためにも、職員みんなで話し合いを持ちいろいろ計画案を提案できる環境づくりを行っている。
3	児童発達支援・放課後等デイサービスの混合型のため異年齢との関わりがもてる	○みんなで日々の活動を行うため、小さいお友達に対しての優しさがあってかわいがってくれたり、年上の児童に負けたくないなどの競争心がめばえたり、いろいろなことを見て吸収している	小さい子を交えてのチームをつくり対戦したり関わりをより多くもてる活動内容を考えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会が少ない	地域の公民館等を活用し、誕生日会やクリスマス会・ハロウィンなどイベントを開催している。 公園遊びや児童館を利用しほかのこどもたちと関りを持つことがあるが保育園やこども園、幼稚園等とイベントを共同で行うことは、制度上難しい。	地域の行事などから気軽に参加できるものから参加してみる。 受け入れてもらえる園などが少ないため行政へ働きかける。
2	保護者同士の交流を持つ機会が少ない	歯科衛生士を招いての講習会とかを企画 スポーツレクを行い交流の場を設けてはいるが、参加される方が限定されてしまっている。	メディカルアロマやお茶会など気軽に参加できるイベントの機会を増やし、保護者同士の交流の場がもてるようにする。
3	保育園・こども園・小学校の先生との情報共有や支援の方向を共通認識が足りない。	半年に1回程度のモニタリングの機会にお互いの情報共有は行えているが、こどもの育ちを考えると、もう少し短いスパンで情報共有し関係機関で支援の方向を合わせる必要があるが、各現場の状況で時間確保が難しい。	訪問支援なども活用し、情報共有できる機会を増やす。 保育園やこども園・学校等の保育参観・授業参観などに参加してもいいか働きかける。